

## 「いい子だね！」はNGワード！子どものほめ方

子どもがお手伝いしてくれた時、「お手伝いしてくれて、いい子だね」という事、ありませんか？

「いい子にしてたね」など、この言葉は多くの方がよく口にしています。

でも、この言葉は、褒め言葉と思いきや、意外とNGワードなのです。

「いい子だね」とは、人を評価する言葉であり、上の人間が下の人間を判定する時に使うものです。

つまり、「親にとって都合の良い子」という意味。

あまり、多用すると、次もほめられる事を目的に行動するなど、評価ばかり気にするようになり、自分の心を押さえて頑張りすぎてしまいます。

では、子どもが良い行動をした時にどんな言葉を書けるのが良いのでしょうか。

例えば、お友達におもちゃを貸してあげていたら、「お友達に優しく出来たね。ママ、とっても嬉しかったよ」と評価の言葉を使わず、自分の気持ちを軸にして伝えましょう。

「お手伝いしてくれていい子ね」ではなく、「お手伝いしてくれてありがとう。嬉しいわ」と感謝の気持ちを伝える事で「誰かに喜んでもらう事、人の為になる事って嬉しいな」という気持ちが育ちます。

また、「すごいね！」「えらいね！」ばかりだと、小学校高学年くらいの反抗期前になると「また、心にもない事を」と捉えられて、心に響かなくなります。

ほめ方のバリエーションを増やすには、「わー！工作、完成したね」のように見たままの情報を伝える事が大切です。

つい言ってしまう何気ない言葉が、子どもにとって様々な影響を与える事を考えて、これからも接していきたいですね。